

令和3年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	01	104380	先人顕彰推進事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	02	先人の顕彰			
目的	郷土の先人の業績を広く紹介するため、市内施設で企画展を開催する。					
対象	市民、観光客					
意図	市民が地域の歴史や文化に触れることにより、郷土に誇りと愛着を持つようになる。観光客は、花巻の先人を理解することにより再訪への足がかりとなる。					
事業概要	<p>共同企画展 2,192千円 令和3年12月11日から令和4年1月23日に開催 企画展開催館3館 ( 萬鉄五郎記念美術館、花巻新渡戸記念館、博物館 ) 総合文化財センター、高村光太郎記念館は今年度は実施しなかった。 市内先人顕彰施設にて花巻ゆかりの先人について同時期に企画展を行う。</p> <p>先人顕彰ギャラリー展 28千円 市立図書館4館及び文化会館を会場に開催。 功績を残しながらも埋もれている花巻の先人を広く市民へ紹介する。</p>					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	共同企画展の開催館数	館	計画	5.00	5.00	
			実績	5.00	3.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	共同企画展入場者数	人	目標	5,000.00	5,000.00	
			実績	1,737.00	2,007.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
共同企画展の開催館数は減少（5館 3館）したが、コロナウイルスの影響もありつつも来館者数は昨年度より増加した。企画展の内容としては、アンケート結果から来館者の満足度も高かった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市内各施設の企画展の開催時期を合わせることで、来館者へのサービスを図るもので公共関与は妥当である。
	妥当である	
見直し余地がある		
妥当でない		
有効性	成果の向上余地	知られていない先人は多く、市民へ広く紹介する機会を設ける。企画展の内容について連携することにより、市民をはじめ、より多くの来館者が訪問しやすくなる。
	向上余地がある	
向上余地がない		
効率性	事業費・人件費の削減余地	職員の直営で行えるものは対応するなど、最低限のコストを考慮している。簡易な事務については、非常勤職員で対応しているが専門知識を要する業務が多いのでこれ以上の削減はできない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	入館料を徴収し、受益者負担としており公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
費用負担の見直し余地がある		
総合評価	適正である	
	今年度の振り返り	市民が地域の歴史や文化に触れることにより、改めて郷土に目を向け故郷の良さを再発見し愛着を持つようになった。
次年度に向けて	まだ知られていない先人の多くおり、この先人たちの偉業を調査・掘り起こしをし、広く市民へ紹介する機会を提供する。	

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	06	104500	宮沢賢治普及・啓発事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興		
	施策	02	先人の顕彰				
目的	宮沢賢治の人と作品に対する理解を深めるとともに、研究者・愛好者の交流を深めるため、宮沢賢治に関する資料を収集・保存し、情報を提供するとともに、セミナーや研究発表会、シンポジウム、研修会、企画展等を開催する。						
対象	市民、観光客及び全国の賢治研究者・愛好者等						
意図	宮沢賢治に関する情報の収集・提供や研究者・愛好者の交流により、賢治作品や研究成果にふれ、賢治の人と作品に対する理解を深め、賢治の普及に大きく寄与する。						
事業概要	宮沢賢治学会イーハトーブセンター事業補助 9,732千円 ・宮沢賢治に関する資料・情報の収集及び提供 ・定期大会、研究発表会等の開催 ・研修会・講座等の開催 ・会員間の情報交流、研究活動への協力 ・宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考、学会功労賞の選考・決定 企画展の開催（宮沢賢治学会イーハトーブセンター委託） 1,100千円 ・応募企画展等						
市民参加の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	R02	R03	R04
1	企画展開催回数		回	計画	4.00	4.00	
				実績	4.00	4.00	
2	賢治セミナー開催回数		回	計画	5.00	3.00	
				実績	0.00	4.00	
3				計画			
				実績			
成果指標			単位	区分	R02	R03	R04
1	入館者数		人	目標	26,000.00	26,000.00	
				実績	15,699.00	13,715.00	
2	セミナー出席者数		人	目標	500.00	500.00	
				実績	0.00	229.00	
3				目標			
				実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染症の拡大が小康状態が少しあったものの収まらず、入館者、セミナー参加者ともに減少したが、セミナー等の開催をオンラインを使用しながらのハイブリット開催を施行できたことは成果として挙げられる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学会は、市民からの提言をもとに、平成2年に「ふるさと創生事業」として設立されたものである。学会は、宮沢賢治の人と作品の普及に多大な寄与をしており、今後も学会が重要な役割を果たすものと思料されることから、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	興味・関心の深いセミナーや企画展等を実施し、広報、PRを充実することにより、来館者数の減少を食い止め、セミナー出席者数の増加を図りたい。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業手法の見直しや、会議開催方法についても経費削減に取り組み、加えて、人件費について、最小限の経費と人員で実施していることから、削減できる余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	イーハトーブ館条例の設置目的等を踏まえ、宮沢賢治に関する講演会、研究会等に使用するほか、市民の学術・文化の発展に寄与する事業に使用するなど、統一した取扱いをしている。また、目的以外使用の使用料の取扱いを定め、統一的に運用している。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	イーハトーブ館に宮沢賢治に関する図書・資料・論文等の情報が収集・保存・整理され、この情報を提供することにより宮沢賢治の情報拠点として重要な役割を果たされた。今年度のセミナー等は、オンライン（zoom）を使用しながらのハイブリット開催であり、ウィズコロナ時代の方法を模索することができたが、方法の周知が不足したこともあり、参加者については少数であった。
	次年度に向けて	イーハトーブ館に宮沢賢治に関する図書・資料・論文等の情報が収集・保存・整理され、この情報を提供することにより宮沢賢治の情報拠点として重要な役割を果たしていく。また、企画展やセミナー、研究会等を開催することにより調査研究を深め、学ぶ場を提供をすることにより、市民を始め全国から多くの方々に来館若しくはオンラインから参加され、賢治を学びながら、交流を深める。

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	10	05	07	104530	新渡戸記念館企画展示事業費
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興
	施策	02	先人の顕彰		
目的	市民が地域の歴史や文化に触れ、郷土への愛着や誇りを醸成するため、花巻の開発に貢献した新渡戸氏の顕彰と新渡戸家に関わりのあった先人達の業績などを紹介する。				
対象	一般市民及び県内外の観光客				
意図	江戸時代以降の花巻発展に貢献した新渡戸家や新渡戸稲造を顕彰・紹介し、花巻の歴史の一端を市民に触れてもらうとともに、観光客にも本市をPRする機会とする。				
事業概要	<p>特別展の開催 1,194千円                      ・常設展とは別に、年間を通して3回の特別展を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、1回中止となり、開催は2回となった。</p> <p>新渡戸教室開催等の教育普及事業 65千円                      ・児童生徒から一般まで、幅広い年代を対象とした講座を開催した。</p> <p>開館30周年記念事業 62千円                      ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、録画映像による記念講演を開催した。</p>				
市民参加の有無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	後援・協賛
		補助・助成			委託
活動指標			単位	区分	R02
1	行事開催数	回	計画	10.00	10.00
			実績	7.00	8.00
2			計画		
			実績		
3			計画		
			実績		
成果指標			単位	区分	R02
1	入館者数	人	目標	20,000.00	20,000.00
			実績	5,356.00	5,054.00
2	生涯学習に利用した市内小中学校数の割合	%	目標	14.00	14.00
			実績	6.00	14.00
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり	
				目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>入館者数の推移                      H28年度 14,707人(41人/日)                      H29年度 13,118人(37人/日)                      H30年度 12,805人(36人/日)                      H31年度 11,559人(32人/日)                      R2年度 5,356人(15人/日)                      R3年度 5,054人(16人/日)</p> <p>前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で入館者は減少し、H31までの半数以下となった。生涯学習に利用した市内小中学校は4校（前年2校）、修学旅行で市外の7校（前年8校）が利用した。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学校の教科書では中々習うことの少ない新渡戸氏やそのゆかりの先人に知ること、郷土の歴史に触れ地元愛を醸成するとともに、県内外の観光客に対しても花巻市をアピールする効果もあり、市の業務とするのは至当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	県外からの来館者からは、高い評価をいただいている一方、市民の間においては認識はされているが、リピーターが少ない状況が見受けられる。企画展の周知の工夫や行事を充実させれば、まだ向上する余地はあると思われる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	休館日は年末年始のみという中、正職員2名（事務職と学芸員の各1名）、会計年度任用職員1名（館長）の体制で運営しており、これ以上の削減は困難である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内外を問わず入館者に対して、原則同一料金をいただいております。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	市民に地域の歴史や文化を紹介するため、新田開発などで活躍した新渡戸氏や、新渡戸氏ゆかりの先人を展示し、郷土の歴史や先人の業績に対する理解を深めた。しかし、8月14日から9月24日までの臨時休館や、3回予定のうち1回の特別展を中止するなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、入館者数は低調だった。
	次年度に向けて	新型コロナウイルス感染拡大の対策を徹底しながら、特別展や新渡戸フェスティバルを計画に沿って開催するとともに、教育普及事業の展開により、市民や小中学生の学習の場を設けていく。

令和3年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	07	104540	新渡戸記念館整備事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	02	先人の顕彰			
目的	利用者の安全確保及び満足度向上と、建物の保全・長寿命化を図るため、施設改修を実施する。					
対象	一般市民及び県内外の観光客					
意図	江戸時代以降の花巻発展に貢献した新渡戸家や新渡戸稲造を顕彰・紹介し、花巻の歴史の一端を市民に触れてもらうとともに、観光客にも本市をPRする機会とする。					
事業概要	高圧受変電設備（屋外型キュービクル）更新 2,409千円					
市民参画の有無	無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	整備事業実施件数	件	計画		1.00	
			実績	1.00	1.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
当館を整備することでこの事業の意図は達成できるため、成果指標は設定しない。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学校の教科書では中々習うことの少ない新渡戸氏やそのゆかりの先人を知ることは、郷土の歴史に触れ地元愛を醸成するとともに、県内外の観光客に対しても花巻市をアピールする効果もあり、市の業務とするのは至当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	県外からの来館者からは、高い評価をいただいている一方、市民の間においては認識はされているが、リピーターが少ない状況が見受けられる。企画展の周知の工夫や行事を充実させれば、まだ向上する余地はあると思われる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	休館日は年末年始のみという中、正職員2名（事務職と学芸員の各1名）、会計年度任用職員1名（館長）の体制で運営しており、これ以上の削減は困難である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内外を問わず入館者に対して、原則同一料金をいただいております。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	花巻新渡戸記念館は平成3年に整備された施設であり、整備後、約30年を経過しており、設備の更新や改修が必要となっている。今年度の事業の実施により、設備機能の保全・向上や施設の長寿命化が図られ、来館者の満足度の向上に繋がっている。
	次年度に向けて	今年度事業の関連の設備として、高圧気中開閉器の取替修繕を行う。

令和3年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	10	05	11	104640	高村光太郎記念館企画展示事業費
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興
	施策	02	先人の顕彰		
目的	高村光太郎をより多くの方々に紹介するため、企画展等を開催する。				
対象	市民、観光客				
意図	市民が地域の歴史や文化に触れることにより、郷土に誇りと愛着を持つようになる。 観光客は、花巻の先人を理解することにより再訪への足がかりとなる。				
事業概要	高村光太郎に関する企画展 1回 550千円 企画展「光太郎の三陸廻り」 期間令和3年7月16日～令和3年9月30日  高村光太郎記念館講座と企画展示 1回 329千円				
市民参加の有無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	後援・協賛
		補助・助成	委託		
活動指標		単位	区分	R02	R03
1	企画展示の回数	回	計画	2.00	2.00
			実績	1.00	2.00
2			計画		
			実績		
3			計画		
			実績		
成果指標		単位	区分	R02	R03
1	入館者数	人	目標	15,000.00	15,000.00
			実績	6,207.00	4,148.00
2			目標		
			実績		
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
企画展については、例年県内外の来館者から人気があるが、コロナウイルス感染状況に配慮し2回の開催を行うことができた。また、企画展に関する講座は、コロナウイルス感染状況から参集しての開催をとりやめ、WEB配信変更を行った。期間限定のWEB配信であったが、100を超えるアクセスがあったことから、企画展等への関心の高さが伺える。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	先人の偉業を通じ市民へ郷土への誇りを醸成することは市として妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	展示内容の充実を図ることにより、入館者が増加すると判断した。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	職員の直営で行えるものは対応するなど、最低限のコストを考慮している。簡易な事務については、非常勤職員で対応しているが専門知識を要する業務が多いのでこれ以上の削減はできない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	入館料を徴収し、受益者負担としており公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	芸術家高村光太郎も愛した郷土に目を向け、故郷の良さを再発見し愛着を持つように努めた。
	次年度に向けて	高村光太郎生誕140年（令和5年）に向けて、高村光太郎の偉業を調査し広く市民へ紹介する機会を提供する。

令和3年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	02	01	16	124620	賢治のまちづくり推進事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興			
	施策	02	先人の顕彰					
目的	宮沢賢治及び賢治のまち花巻に魅力を感じる市民及び来訪者を増やすため、賢治の作品や考え方に触れる機会を提供する。							
対象	市民、観光客							
意図	賢治や賢治の生誕地である花巻の魅力を感じている							
事業概要	賢治のまちづくり推進事業 賢治を学ぶ場づくり 8,189千円 宮沢賢治賞・イーハトーブ賞、賢治セミナー、「賢治の世界」セミナー・ワークショップ、特別展 賢治イベントの開催 32,406千円 宮沢賢治生誕祭全国俳句大会、全国高校生童話大賞、賢治フェスティバル 賢治の香りあふれるまちの整備 240千円 賢治アートストリート事業、イギリス海岸リーフレット 賢治情報の発信 2,123千円 賢治カレンダー							
市民参加の有無	対象外							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	R02	R03	R04	
1	セミナー等開催数			回	計画	50.00	37.00	
					実績	27.00	32.00	
2					計画			
					実績			
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	R02	R03	R04	
1	日常生活の中で宮沢賢治の作品や考え方に触れる機会があると思う市民の割合			%	目標	61.00	62.00	
					実績	48.90	45.50	
2					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
宮沢賢治に触れる機会があると思う市民の割合は、令和元年度以前は概ね60%前後で推移してきたものの、令和2年度に48.9%、令和3年度に45.5%に減少した。感染症の拡大により開催中のイベントを一定期間中止したり、イベントの開催自体を中止にしたりするなど、主にイベント関連への影響が要因と思われる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	賢治について学び、賢治に触れる機会や場を提供することによって、より多くの市民や市外の方に賢治に興味を持ってもらうことにつながると考えられることから、市が積極的にイベント等の開催や環境整備、情報発信を行う必要があると考えられる。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	イベントの開催や環境整備、情報発信を行うことで賢治の作品や考え方に触れる機会が増大し、成果が向上すると考えられる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	国の補助を最大限に活用するとともにイベント等の開催では関連団体等の協働による実行委員会形式をとっており、削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内・市外ともに対象を広く設定しているため、受益機会と費用負担については公平と考えられる。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	賢治のまち花巻において、市民や観光客が賢治に触れられる機会を創出するため、感染症の影響を考慮しながら賢治イベントを開催した。また、賢治を学ぶ場づくりを進めるとともに、市内外へ向けて賢治情報を発信することで、「賢治さんの香りあふれるまち」への醸成が図られた。
	次年度に向けて	感染症への対策を講じながら可能な方法で賢治イベントの開催に努めることとし、併せて賢治を学ぶ場の提供や賢治情報の発信を継続する。また、複数の団体が宮沢賢治童話村を会場にしたイベントを企画していることから、このような団体との協働によって成果指標における実績値の増加を図る。